

もり
森 もうてんがい
盲天外(1864~1934)



地方政治家。伊予郡西余戸村(現、松山市)出身。本名は恒太郎。若くして県議員として活躍するが、両目を失明する。失意の中で、一粒の米を手にして心眼を開き比叡山で修行をした。明治31(1898)年、郷里の強い要望で温泉郡余土村(現、松山市)の村長に就任、綿密な実態調査に基づいて作成した「余土村是」で名声を高めた。盲天外は自らが先頭に立って勤儉貯蓄、肥料などの共同購入、小作人保護、耕地の改良、青少年教育、副業の奨励を行い、余土村は模範村として全国で有名になった。

明治40(1907)年、村長を勇退、功労金で愛媛盲啞学校(現、県立松山盲学校及び県立松山聾学校)を創立した。晩年は青年教育のため道後に「天心園」を開き、温泉郡道後湯之町(現、松山市)の町長を務めた。俳句をよくし、正岡子規に師事し「天外」の号を受けたが自らは「盲天外」と称した。

略歴

元治元(1864)年 8月13日	伊予郡西余戸村に生まれる。
明治10(1877)年	愛媛県北予変則中学校(現、県立松山東高等学校)に入学
明治13(1880)年	東京に出て中村敬宇(正直)の同人社で学ぶ。
明治23(1890)年	県議員となる。
明治27(1894)年	眼の病気になり、東京で治療を受ける。
明治29(1896)年	両眼とも失明
明治31(1898)年	温泉郡余土村長になる。
明治33(1900)年	「余土村是」をつくる。
明治40(1907)年	温泉郡余土村長を勇退
明治41(1908)年	『一粒米』を著す。愛媛盲啞学校を創立
大正12(1923)年	天心園を開き、青年の指導をする。
昭和7(1932)年	温泉郡道後湯之町の町長となる。
昭和9(1934)年 4月7日	71歳で永眠

(写真提供：松山市立子規記念博物館)

〈関連図書〉

- ・愛媛県文化財保護協会『愛媛の先覚者4 森盲天外・加藤恒忠』愛媛県文化財保護協会 1966年
- ・森盲天外『一粒米』青葉図書 1977年
- ・愛媛子どものための伝記刊行会『愛媛子どものための伝記 第3巻 森盲天外・山之内仰西・広瀬幸平』愛媛県教育会 1983年
- ・近代史文庫『郷土に生きた人びと - 愛媛県 -』静山社 1983年
- ・愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 人物』愛媛県 1989年
- ・『発掘えひめ人 - 近代を拓いた101人 -』愛媛新聞社 2002年

〈主な収蔵資料〉…(P210, 66)

〈ゆかりのある場所〉…(P288, 99)